



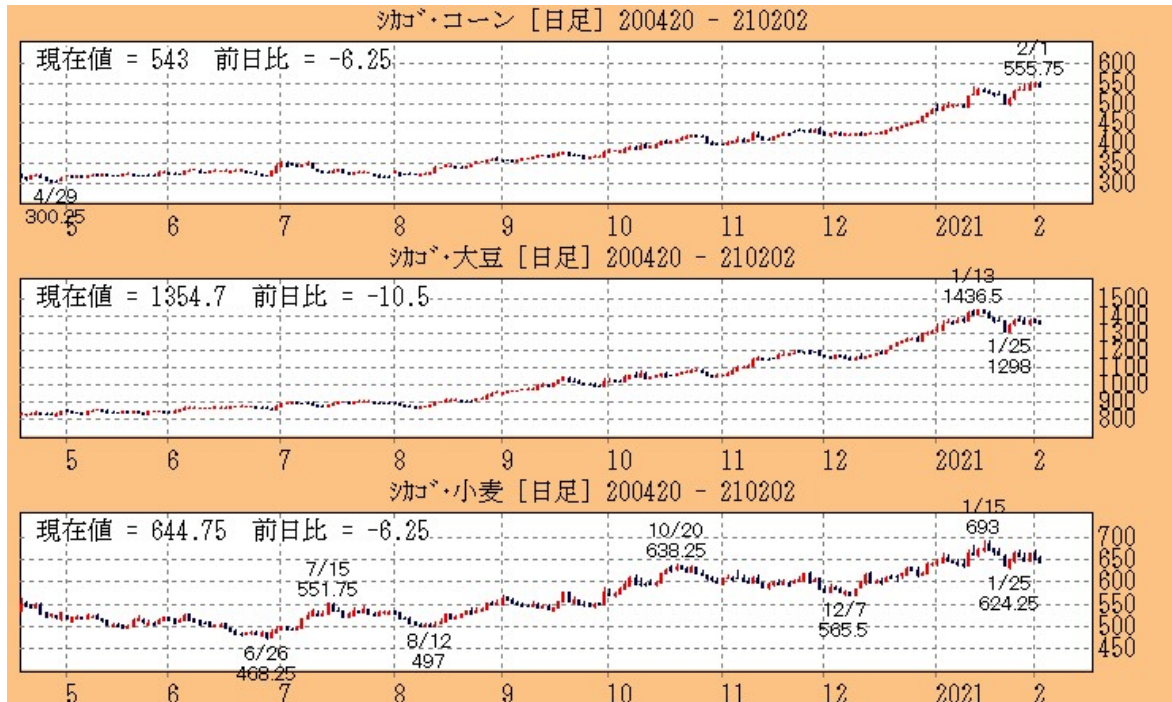
週刊穀物



世界の穀物情報がここに凝縮されています。
毎週水曜日夕方発行

トウモロコシは反落、大豆は続落

発行日 : 2021/2/3



2日のシカゴトウモロコシ3月限は前日比▲6.25セント安の543.00セントと7営業日ぶりの反落。取引レンジは540.25セント～552.50セント。米農務省が発表したメキシコ向けの大口成約や、前週の中国による500万トンの大量成約が支援材料となり、552.50セントの高値を付けたが、その後は連日の高値更新の動きで上値警戒感が強まるなか、手じまい売りが見られたことで売り優勢となった。また、ドル買いが優勢だったことも売りが促される一因となった。ただ540.25セントの安値を付けたところはすぐに買い戻されるなど底堅い動きも見られた。

2日のシカゴ大豆3月限は前日比▲10.50セント安の1354.75セントと続落。取引レンジは1341.50セント～1372.00セント。トウモロコシの下げに追随したほか、ドル高が進行したことで、大豆の高値警戒からの手じまい売りがみられた。ただ、ブラジルでは降雨が続いていることで収穫遅延が懸念されることや、アルゼンチンでの運送業者のストに伴う穀物輸出の混乱などが支援材料となり、1342セントの安値からは買い戻された。

2日のシカゴ小麦3月限は前日比▲6.25セント安の644.75セントと続落。取引レンジは640.50セント～656.75セント。トウモロコシの下げが嫌気されたほか、ドル高傾向を受けて売りが優勢だった。1月15日に693.00セントと、2014年5月以来の高値を付けた後、調整局面に入っている。

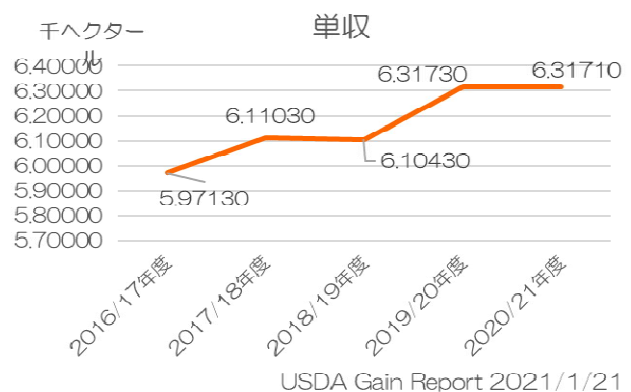
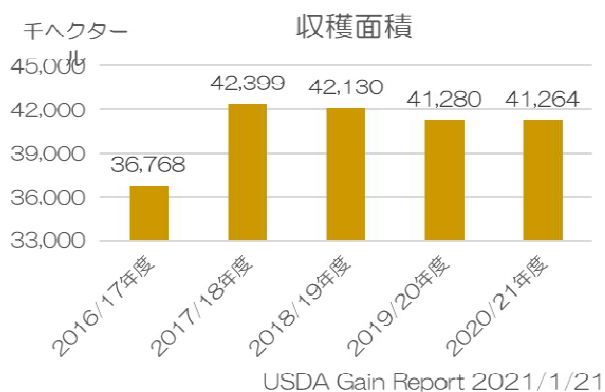


TOPICS 中国ではとうもろこし価格が過去最高値に高騰している 1/21/2021 by USDA GAIN

2020/11/4 Gain Report										
千ヘクタール・千 トン	2016/17年度 (16年10月～)	前年比	2017/18年度 (17年10月～)	前年比	2018/19年度 (18年10月～)	前年比	2019/20年度 (19年10月～)	前年比	2020/21年度 (20年10月～)	前年比
収穫面積	36,768	▲1,351	42,399	+5631	42,130	▲269	41,280	▲850	41,264	▲16
期初在庫	110,774	+10302	223,017	+112243	222,525	▲492	210,163	▲12,362	200,526	▲9,637
生産	219,552	▲5,080	259,071	+39519	257,174	▲1,897	260,779	+3605	260,670	▲109
年度輸入	2,464	+0	3,456	+992	4,483	+1027	7,596	+3113	22,000	+14404
暦年輸入	2,464	▲710	3,456	+992	4,483	+1027	7,596	+3113	22,000	+14404
暦年米国からの輸入	809	+488	308	▲501	319	+11	3,020	+2701	0	▲3,020
在庫/生産/輸入合計	332,790	+4512	485,544	+152754	484,182	▲1,362	478,538	▲5,644	483,196	+4658
年度輸出	77	+73	19	▲58	19	+0	12	▲7	20	+8
暦年輸出	77	+73	19	▲58	19	+0	12	▲7	20	+8
飼料その他	162,000	+8500	187,000	+25000	191,000	+4000	193,000	+2000	194,000	+1000
食料用	70,000	+6000	76,000	+6000	83,000	+7000	85,000	+2000	87,000	+2000
国内総需要	232,000	+14500	263,000	+31000	274,000	+11000	278000.	+4000	281000.	+3000
期末在庫	100,713	▲10,061	222,525	+121812	210163.	▲12,362	213,069	+2906	202,176	▲10,893
期末在庫率	30.26%		45.83%		43.41%		44.52%		41.84%	
生産+輸入	222,016	▲5,790	262,527	+40511	261,657	▲870	200,526	▲61,131	282,670	+82144
国内需要+輸出	232,077	+14573	263,019	+30942	274,019	+11000	278,012	+3993	281,020	+3008
需給バランス	▲10,061		▲492		▲12,362		▲77,486		+1650	
需要合計	332,790	+4512	485,544	+152754	484,182	▲1,362	478,538	▲5,644	483,196	+4658
単収	5.97130	+0.08	6.11030	+0.14	6.1043	▲0.006	6.3173	+0.213	6.3171	▲0.000

中国国内トウモロコシ生産量は▲10万トン減の2億6070万トン

20/21年度の中国のトウモロコシの生産量は作付面積が少し減少して、単収は少し改善したため、前年比▲10万トンと若干の減少で2億6070万トンとなった。中国政府は東北部の主要トウモロコシ生産地で台風が居座ったため深刻な被害が出たと繰り返し説明しているが、業界関係者は、異なった見解を示している。収穫が困難になってその分費用がかかったという。それは毒性の高い穀物により少なくとも800万トンが収穫できなかったという。また2020年の生育シーズンに害虫のツマジロクサヨトウ（蛾の一種）の繁殖が懸念されたが、トウモロコシの生育シーズンまでに北上しなかったため、全体的な影響は最小限に抑えられた。また、干ばつによる生産量の減少は例年に比べて少なかった。

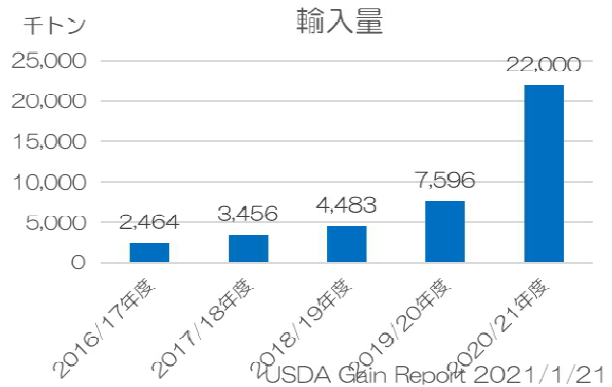
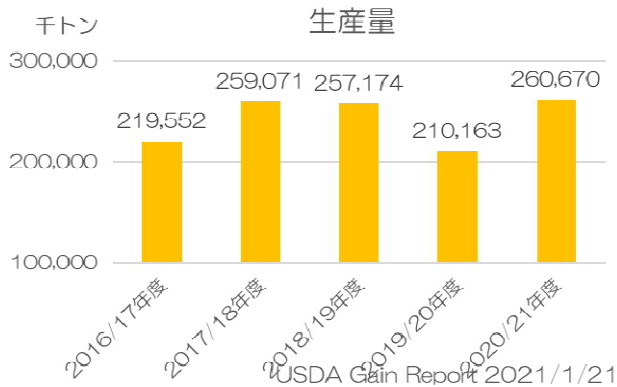




中国のトウモロコシ輸入量は前年比+2.8倍に急増

20/21年度の中国のトウモロコシ輸入量予測は、2,200万トンにとどまっているが、国内価格の高騰、穀物備蓄の再備蓄の必要性和推進力、飼料消費の増加を背景に、引き続き強力な輸入需要があるため、USDAの公式予測よりも4.5万トン多くなっている。

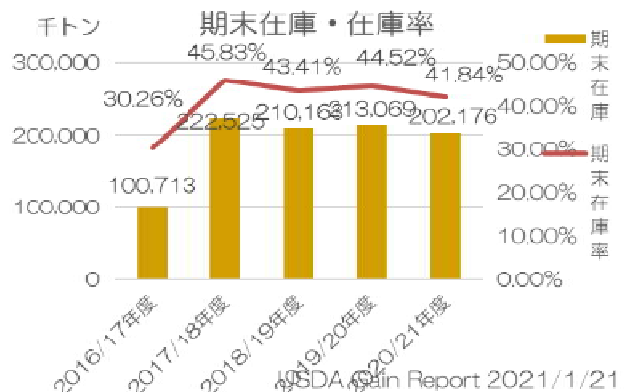
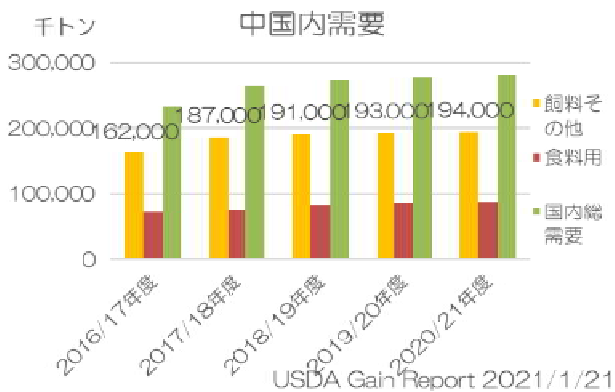
中国は2020年暦年の輸入割当量（TRQ）720万トン以上を輸入しており、減速は見られない。公式の政府機関が沈黙しているため、輸入トウモロコシに65%の関税撤廃が適用されたのか、それとも追加の割り当てが密かに発令されたのかはまだ不明である。さらに、業界では、中国が米中経済貿易協定第一弾の下での購入約束を果たすために米国産トウモロコシを輸入するために使用される「特別な輸入割当」についても憶測が流れている。中国のトウモロコシ輸入量は2,200万トンに達すると推定される。



中国国内トウモロコシ需要は前年比+30万トン増の2億217万トン

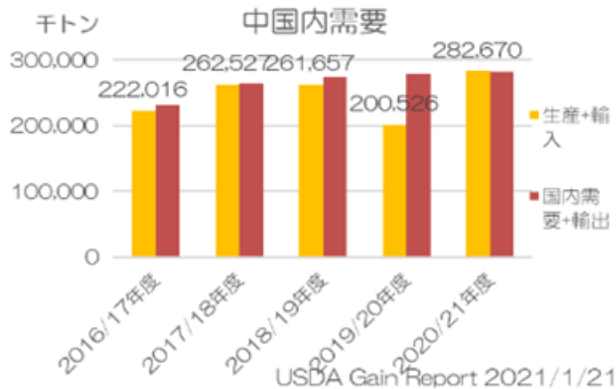
20/21年度の飼料用等のトウモロコシの需要は前年比+100万トン増の1億9400万トン。食料用は前年比+200万トン増の8,700万トン。国内需要合計は前年比+300万トン増の2億8,700万トン。USDAの前の予測より▲600万トン下方修正されている。

コーンスターチ工業の11月の設備稼働率は69%と10月から+2%上昇した。11月のトウモロコシのエタノール製造プラントの稼働率は前月比+5%の55%だった。それでも前年比では▲15%低い。

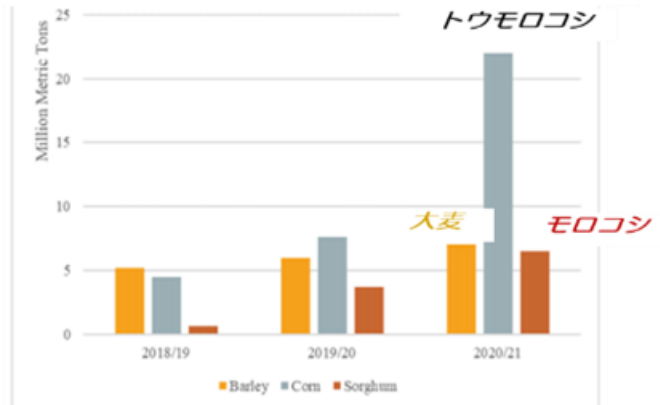


中国トウモロコシ期末在庫は少し

20/21年度の最終在庫は2億220万トンと予想され、米国農務省の予想から+1,070万トン増加している。12月中旬、トウモロコシ価格の高止まりに対応して、同州は北東部の加工工場向けに2015年産のトウモロコシを57万6574トンを提供することで、一時的なトウモロコシの競売を再開した。中国の公式報道機関は、穀物貯蔵サイロの不祥事の事例を報じ、その結400万トン以上の「消えた穀物」が発生したと報じた。これを受けて、国務院は9月24日、中央備蓄穀物のための民間穀物貯蔵サイロを承認するための新たな証明書を発行しなくなり、中央備蓄穀物はシグレインが直接管理する施設にのみ貯蔵されると発表した。

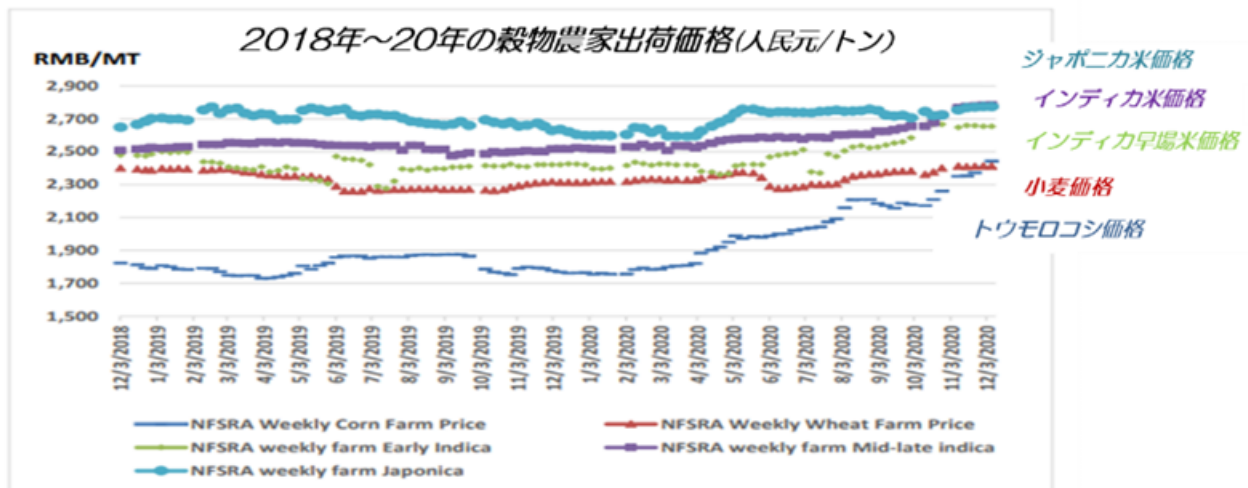


拡大する中国の飼料用穀物の輸入量



中国国内トウモロコシ価格は高騰中

Table 5: FAS China: Wheat, Corn, Rice Price Comparisons



中国のトウモロコシ価格は11月の第二週には下落しが、その後反発して過去最高値を更新した。12月初めには養豚飼育頭数が増加し、国有企業の調達量が増加し、価格の変動が激しくなった結果としてトン当たり417ドル（2700人民元）になった。政府系のメディアでは過去数十年で穀物価格は10倍足らずになったが、その間に収入は100倍以上に増えていると述べている。新聞によれば穀物の供給と農民の収入はどちらも保証されているという。

TOPICS 中国の飼料メーカーや、工業用トウモロコシメーカーはトウモロコシ確保に資金を使っている

中国のとうもろこしユーザーは供給確保のための支払いを覚悟しているという。中国の飼料メーカーやその他の商業用穀物ユーザーが保有するトウモロコシの在庫は、一部の地域で数年来の高値に跳ね上がっており、トウモロコシのヘビーユーザーが最近の収穫をきっかけにしても作物不足を懸念し続けていることを示している。中国の工業用トウモロコシユーザーは、2019年以降、急速に回復している豚部門に供給するために穀物を手に入れ、2020年の間に現地のトウモロコシ価格を50%上昇させ、先週の中国の史上最大の米国産トウモロコシ取引を含む記録的な作物の輸入を誘発した。

中国国内トウモロコシ価格は高騰中

(1) 飼養戸数は、毎年、年率4%程度の減少傾向で推移し、令和2年は(2020年)3.4%の減少。飼養頭数は、減少傾向で推移していたが、平成30年(2018年)に16年ぶりに増加に転じ、平成31年(2019年)も2年連続で増加。令和2年(2020年)も増加(+1.0%)。一戸当たり経産牛飼養頭数は、前年に比べ増加傾向で推移。乳用牛の遺伝的な泌乳能力は、改良の結果年々上昇しており、経産牛一頭当たりの乳量は増加傾向で推移。

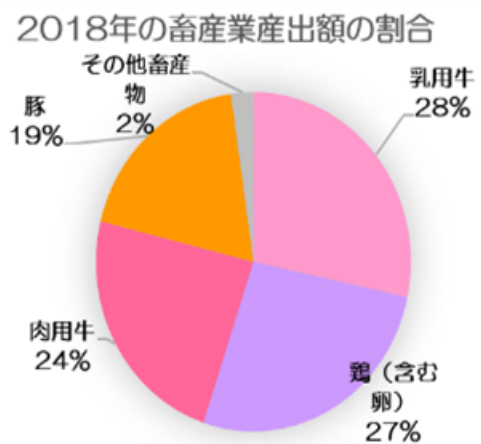
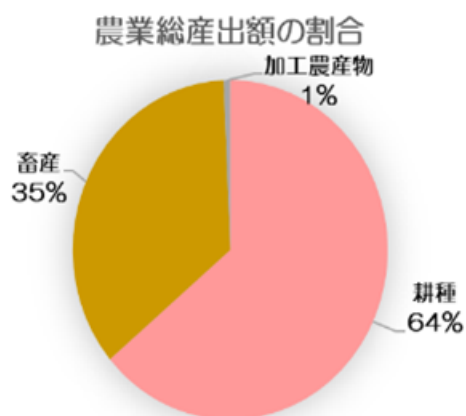
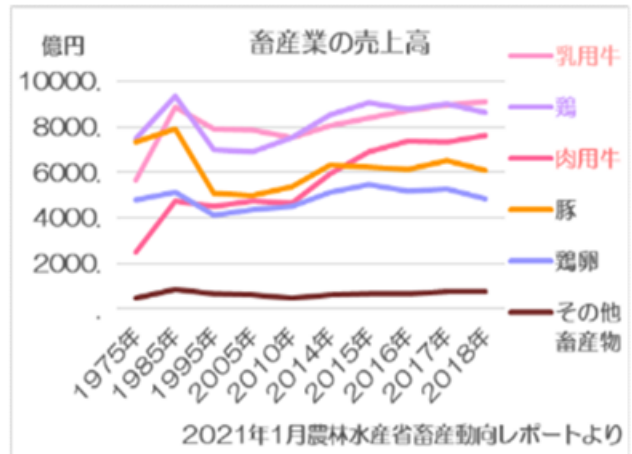
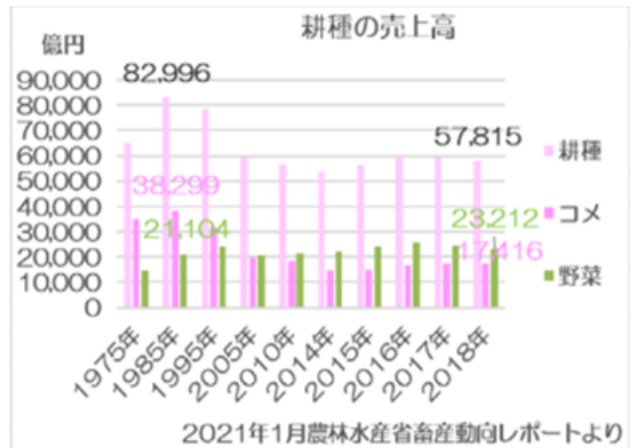
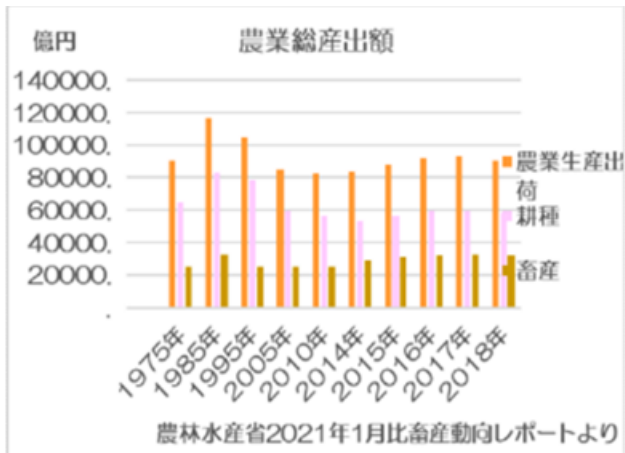
(2) 搾乳牛一頭当たりの所得は、配合飼料等の生産資材価格の上昇を背景に、平成19～20年度は低迷。平成21年度は飼料費が減少したことに加え、乳価が上昇したこと等により、19万円程度まで増加。その後、平成22～23年度は、再度低下したが、平成24年度には、飼料費は増加したものの、乳価の上昇等により増加し、18万円程度に回復した。平成25年度には、乳価上昇や乳量の増加があったものの、飼料費等の上昇もあり、平成24年度より低下した。平成26～28年度は、乳価の上昇等により収益性は向上。平成29年度以降も、乳価は上昇したものの、飼料費や乳牛償却費等が上昇したことにより、収益性は低下。

(1) 消費 消費量は、最近の肉ブームの高まりを背景に増加しており、平成30年度は対前年度比2.9%増の93万トンと、米国BSE発生による影響を大きく受ける前の平成14年度と同水準まで回復。令和元年度は対前年度比0.7%増。

(2) 国内生産 生産量は、平成23年3月の東日本大震災・原発事故の影響等による肉専用種の生産量の減少を受け、減少傾向で推移していたが、畜産クラスター事業の取組等により平成29、平成30年度と2年連続で増加し、平成30年度は33.3万トンまで回復。令和元年度は、肉専用種は増加しているが、乳用雌牛の頭数減少等により乳用種去勢や交雑種が減少しており、対前年度比1.0%減。

(3) 輸入量は、焼肉・ハンバーガーなど外食産業等の需要が旺盛であることを背景に、平成28年度以降は毎年前年度を上回って推移し、平成30年度は、対前年度比8.4%増の62万トン。しかし、令和元年度の輸入量は、中国でのASFの影響等により、豪州から中国向けの輸出量が増加していること等により、対前年度比0.4%増と、直近3カ年度の平均増加率108%から大きく鈍化している。(4) 卸売価格〔中央10市場〕卸売価格は、近年、肉ブームの一層の高まりや生産量の減少を背景に、和牛は平成28年度、交雑種は平成27～28年度、乳用種は平成27年度にそれぞれ過去最高水準まで高騰。令和元年度(4～2月)は、和牛の価格は、生産量の増加等を背景に軟調に推移していたが、2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響によるインバウンド需要や外食需要の減退により大幅に低下。5月以降は経済活動の再開に伴い価格が上昇し、11月には和牛去勢A4の価格が2,509円/kgと昨年を上回る水準まで回復。

[illegible]





今後の予想

中国のトウモロコシ価格は高騰しているようだ。需給バランスから見るとさほどのタイト感を感じられないが、必要な所に十分な物資が届かないことは広い中国ではよくあることで、南部で猛烈に輸入が行われているが、東北部では余っているという状況でも、統計上ではバランスしているように見えるほど、中国大陸は広い。南部では東北地方から国内産トウモロコシを輸入するより、米国から輸入した方が割安だということであろう。そこに輸入割当が十分に発給されておらず、割り当てを持っている輸入業者が足元を見て高値で輸入品を売っている状況があるのだと思われる。従って米国などからのトウモロコシの中国の引き合いは当分強いと思われる。これが南米の二期作目の作付け遅れと相まってシカゴトウモロコシ価格は当分強いものと思われる。2月18日～19日にUSDAのOUTLOOK FORUMが開催され、2021年度の作付け予想が出されるので、次の価格変動要因は来期の作付面積予想に移るだろう。

ご案内

You -Tubeで金や原油の動画解説中

毎週月曜日午後8時 Gold TV netにて金やプラチナ・原油の解説をYou Tubeの動画で近藤 雅世と小針秀夫が行っております。サイトは『Gold TV net』検索ください。 <https://gold-tv.net/>

掲載される情報は株式会社コモディティ インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっておりません。また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

発行元：



株式会社コモディティ インテリジェンス 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310

☎社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692

✉メールアドレス：kondo@commi.cc